

入玉将棋の取り扱いについて

愛知県高文連将棋専門部主催の大会では、**入玉宣言法**を採用しています。高校将棋選手権および高文連将棋新人大会の全国大会でも導入されました。各校で周知をお願いします。

※ 入玉宣言法の説明

宣言しようとする側の手番で、指さずに「宣言します」と言い、時計を止めて対局を停止させる。その時の局面が次の条件をすべて満たしていれば、宣言側が勝ちとなる。

- [条件 1] 宣言側の玉が敵陣 3 段目以内に入っている。
- [条件 2] 宣言側の敵陣 3 段目以内の駒は玉を除いて 10 枚以上存在する。
- [条件 3] 宣言側の玉に王手がかかっていない。
- [条件 4] 宣言側が（大駒 5 点、小駒 1 点の計算で）先手なら 28 点以上、後手なら 27 点以上ある。ただし、点数の対象となるのは、玉を除く宣言側の持駒と敵陣 3 段目以内に存在する宣言側の駒のみである。

なお、条件 1～4 のうち一つでも満たしていない場合、宣言側が負けとなる。

※ 入玉宣言法が適用された例

2022 年 7 月、プロ棋戦で初めて入玉宣言が発生した時の局面です。212 手目に後手が 2 四馬と指したあと、213 手目に先手が宣言しました。



先手から見て、敵陣(上側 3 段目以内)に玉があり(条件 1)、敵陣に玉を除き 10 枚の駒があり(条件 2)、自玉に王手がかかっておらず(条件 3)。持ち点は 35 点あります(条件 4)。よって先手の勝ちとなりました。